

# 全国学力・学習状況 調査結果

実施日	平成31年4月18日
調査学年	第6学年53名
調査内容	国語 算数 児童質問

## 1 調査結果概要（国語）

国語「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」に基づいて、その全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選。

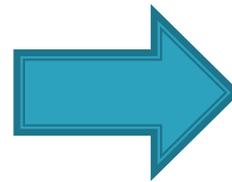
	平均正答数	平均正答率
本校	8.5 / 14	61.0%
東京都	9.1 / 14	65.0%
全国	8.9 / 14	63.8%

## 正答率が高かった問題

### 1 調査結果概要（国語）

#### 大問1の小問一

2つの資料をそれぞれどのような目的で用いているのか選択する。



正答率

75.5%  
(都+2.6)

図表やグラフが、どのような目的で活用されているのか捉えることができていた。



授業において、図やグラフの読み方を丁寧に  
行った成果

## 正答率が低かった問題

### 1 調査結果概要（国語）

#### 大問1 小問三

調査の内容と結果の分かったことを条件に合わせてまとめて書く。

正答率 20.8%  
(都 - 7.5P)

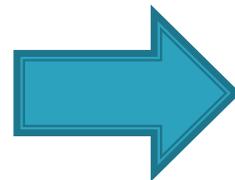
目的や意図に応じ、自分の考えを明確にして、まとめて書くことに課題がある。

自分の考えを限られた文字数で書き表す場面を多く設定することが必要である。

## 漢字の問題の傾向

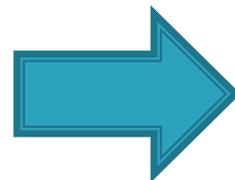
### 1 調査結果概要（国語）

大問1の小問四  
調査の（たいしょう）



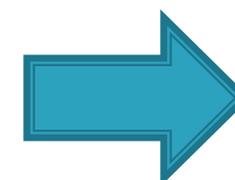
正答率  
41.5%  
(都-0.7)

友達に（かぎらず）



77.4%  
(都+5.9)

公衆電話について  
（かんしん）をもって



32.5%  
(都-9.6)

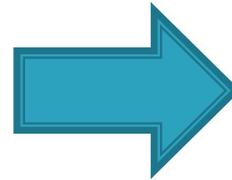
読み方によって、異なる漢字を表す場合、その漢字の意味を理解することが課題である。

## 正答率が高かった問題

### 1 調査結果概要（国語）

#### 大問3の小問一

インタビューの内容から、適切な質問を選択する。



正答率

81.1%  
(都-1.9)

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って自分の理解を確認することができた。



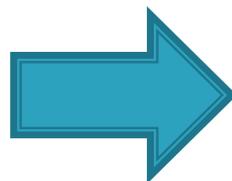
話の一部だけでなく全体を捉えるよう、文章の前後に気を付けたり、話を大きく捉えたりするよう展開してきた成果。

## 正答率が低かった問題

### 1 調査結果概要（国語）

#### 大問3 小問二

インタビューの様子から目的に応じて工夫することができるか。



正答率 64.2%  
(都 - 6.0P)

話の展開を踏まえた上で、質問をどのように工夫しているのか捉えきれていない。

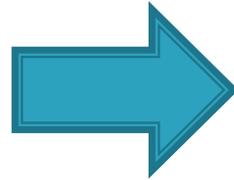


意見や考えを引き出すための工夫とはどのようなものか、授業において取り入れていく。

## 言語事項の傾向

### 1 調査結果概要（国語）

大問3の小問四  
「習うより慣れよ」  
使い方の例を選択する。



正答率

60.4%

（都－13.7P）

慣用句やことわざなど、日常における機会に触れること、読書など文字に親しむ機会を多く設定することが必要である。

## 本校の実態と課題

目的や意図に応じて、題意を捉えたり、自分の意見を他と比べて考えたりすることができてきた。

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にしたり、相手の考えを工夫して聞き出したりすることが課題。

## 指導改善のポイント

課題の意図を十分に捉えさせ、自分の考えを明確にし、短い文章で書き表す活動を取り入れる。

文章における効果的な工夫について捉えるよう指導し、その工夫を用いて実際に話し合いなどの場面を取り入れる。

## 2 調査結果概要（算数）

**算数** 言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりする能力を検証する。

	平均正答数	平均正答率
<b>本校</b>	<b>8.7 / 14</b>	<b>62.0%</b>
<b>東京都</b>	<b>9.8 / 14</b>	<b>70.0%</b>
<b>全国</b>	<b>9.3 / 14</b>	<b>66.6%</b>

## 正答率が高かった問題

## 2 調査結果概要（算数）

### 大問2の小問一

市全体の水に使用量の  
グラフの変化を読み取り  
選択する。

98.1%  
(都 + 3.0P)

グラフの増減や変化を読み取り、その  
変化について考えることができる。

授業において、表やグラフの読み取りを丁寧  
に行い、事実を把握する力を育ててきた成果。

## 正答率が高かった問題

## 2 調査結果概要（算数）

### 大問4の小問一

列に並んでいる人の進み具合を調べるために、何を調べればよいのか選択する

84.9%  
(都 - 0.6P)

伴って変わる数量の変化を見つけ、数量の関係を表したり調べたりすることができる。

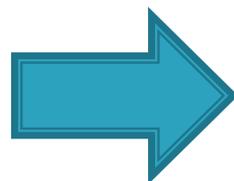
授業において、表やグラフを読み取り、その変化に着目し、題意を捉えることを取り組んだ成果。

## 正答率が低かった問題

## 2 調査結果概要（算数）

### 大問1の小問三

示された式から、数字の意味について捉え、言葉や数を使って説明する。



35.8%  
(都 - 12.7P)

図形の面積の計算の解釈を理解し、分かっている数を手掛かりに、面積の求め方を言葉や数を使って説明することが課題。

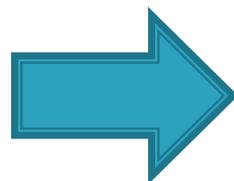
公式など、その意味を十分に理解させ、言葉や数を使って説明する場面を取り入れていく。

## 正答率が低かった問題

## 2 調査結果概要（算数）

### 大問3の小問二

わり算の計算の仕方を3つの言葉を使って、計算しやすいわり算の式について説明する。



20.8%  
(都 - 12.8P)

計算の仕方を解釈し、ひき算の場合を基に、わり算に関して成り立つ性質を言葉を用いて説明することが課題。



計算の仕方や手順を、言葉を用いて説明することができるよう取り入れていく。

### 本校の実態と課題

表やグラフの読み取りや、数量の変化の比較など、事実を把握して題意を捉えることができてきた。

公式や計算の方法や手順を言葉や数を用いて説明することが課題である。

### 3 児童質問紙の結果

## 朝食を毎日食べていますか

0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 %



### 3 児童質問紙の結果

毎日、同じくらいの時刻に起きていますか %

0.0

25.0

50.0

75.0

100.0

本校

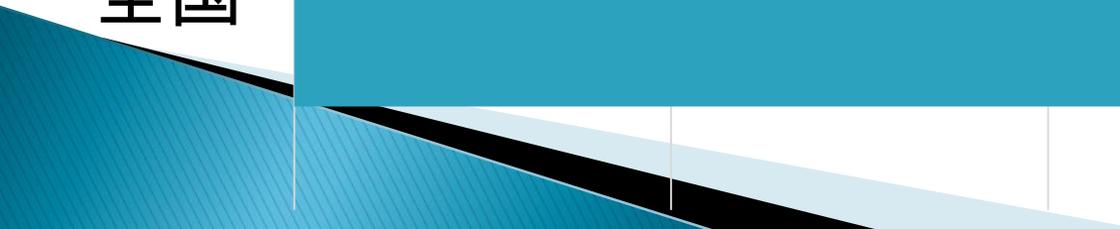
54.7

東京都

56.2

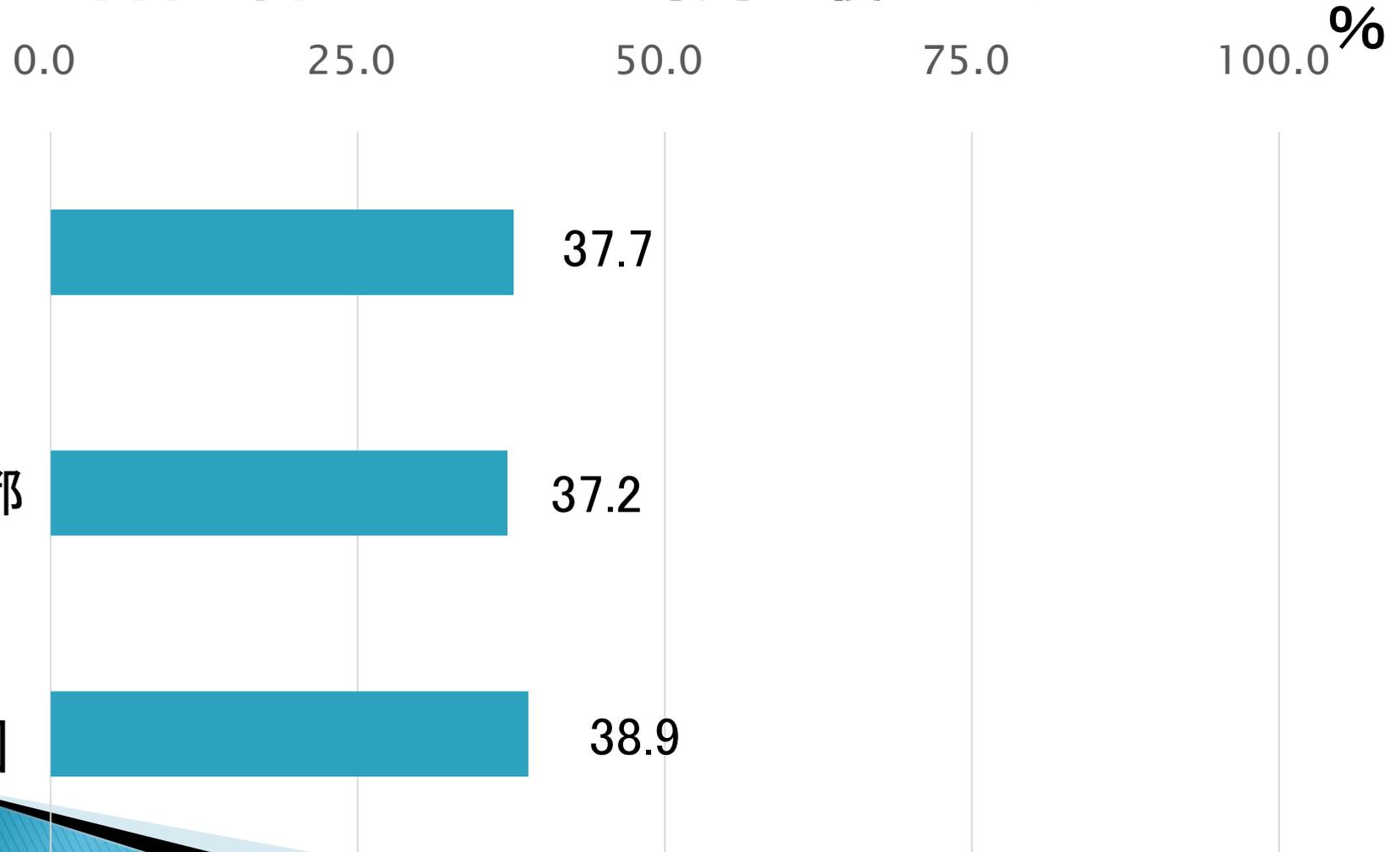
全国

58.7



### 3 児童質問紙の結果

毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



本校の実態と課題

生活リズムの確立が課題である。  
昨年度より数値が低下している。  
今後も継続した取組が必要。

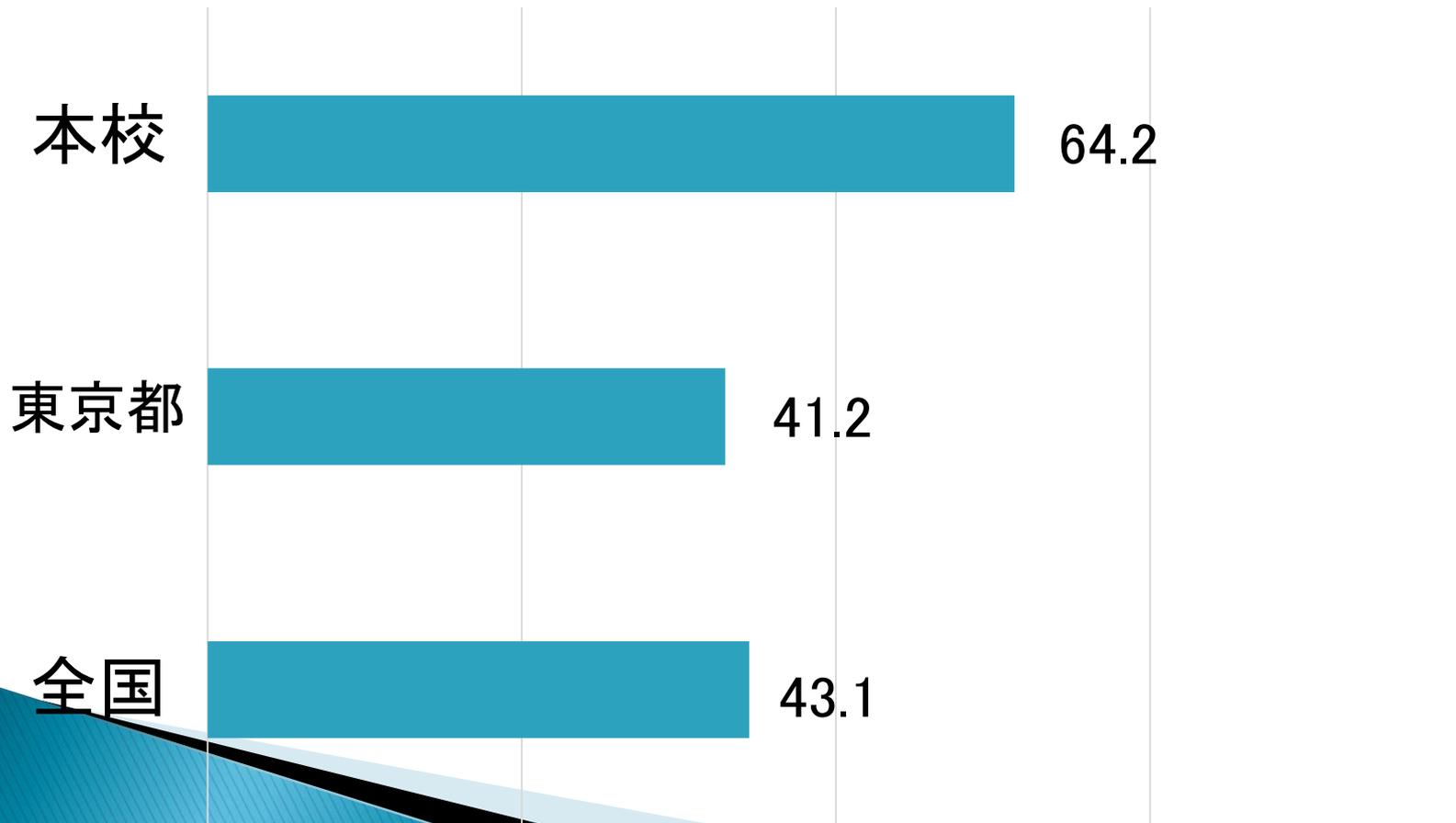


生活リズムの向上は  
学力向上に影響がある

### 3 児童質問紙の結果

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか %

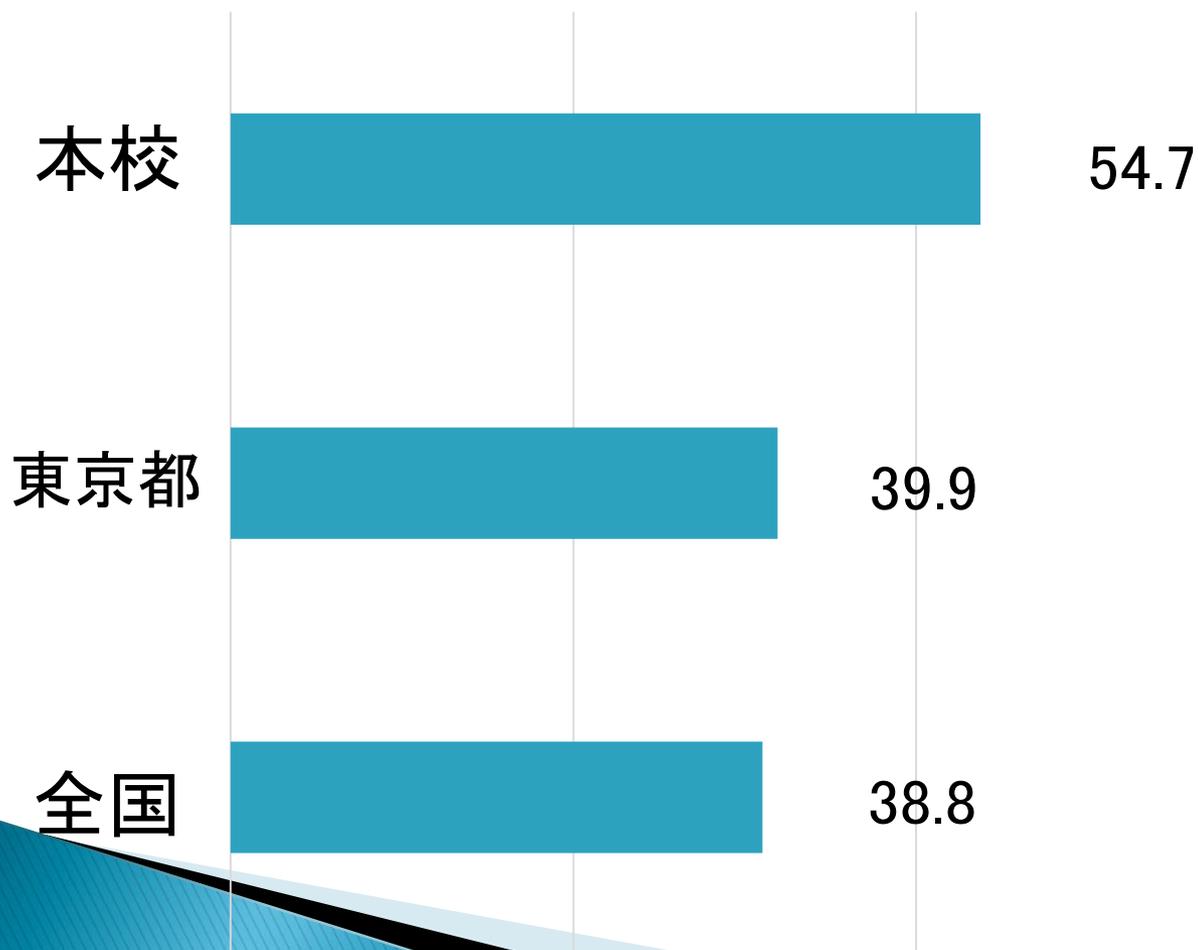
0.0 25.0 50.0 75.0 100.0



### 3 児童質問紙の結果

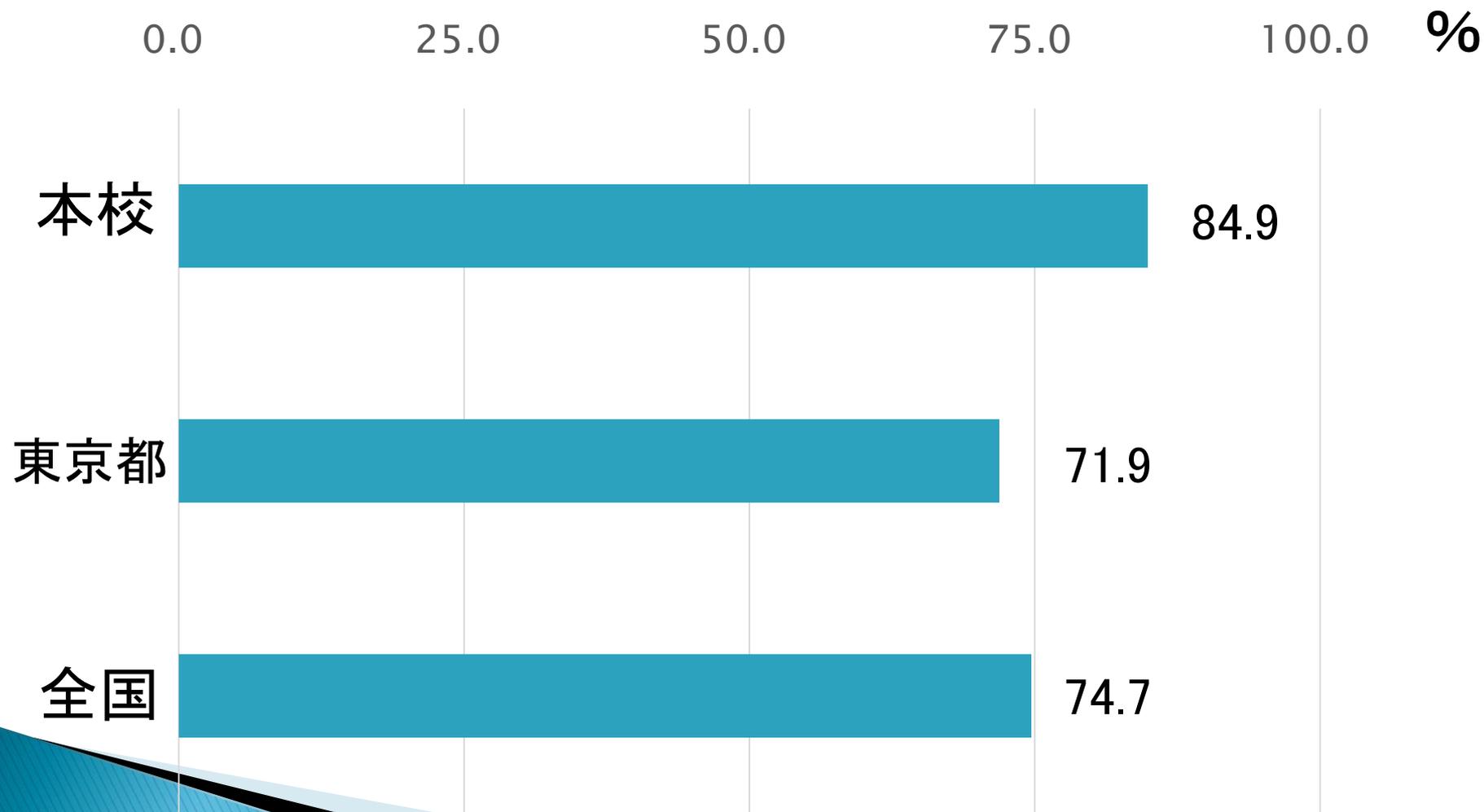
自分にはよいところがあると思いますか

0.0 25.0 50.0 75.0 100.0 %



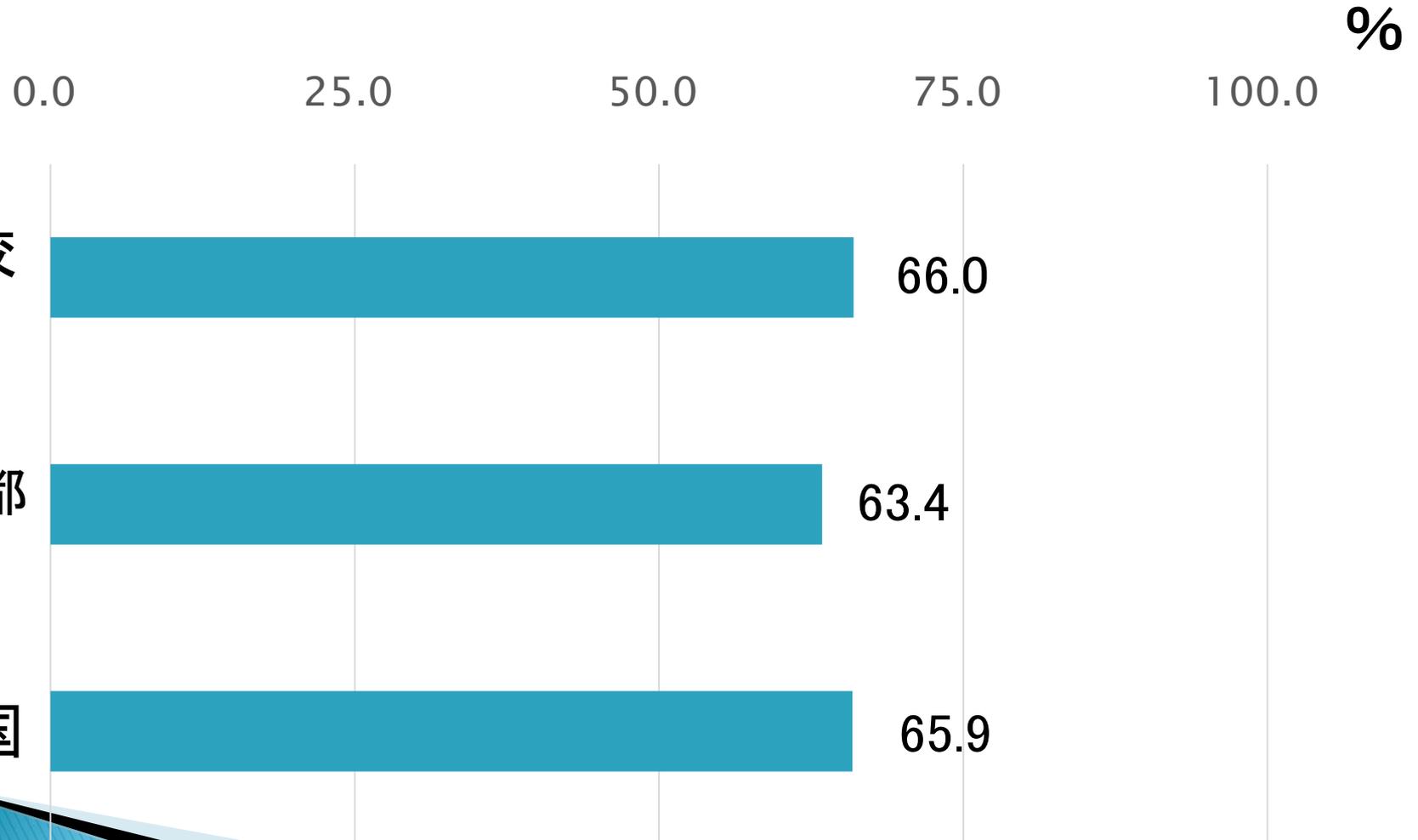
### 3 児童質問紙の結果

## 人の役に立つ人間になりたいですか



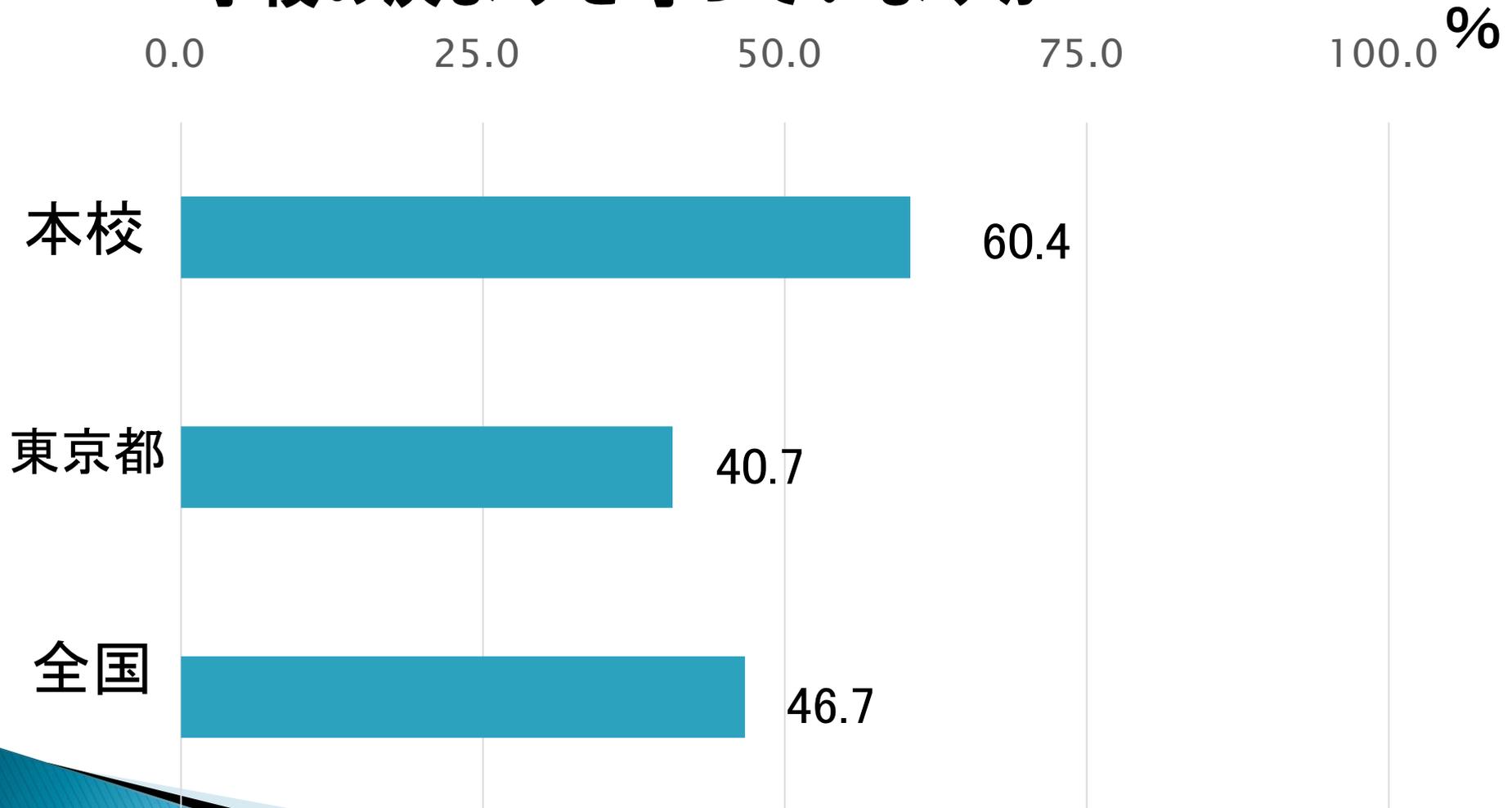
### 3 児童質問紙の結果

将来に夢や目標をもっていますか



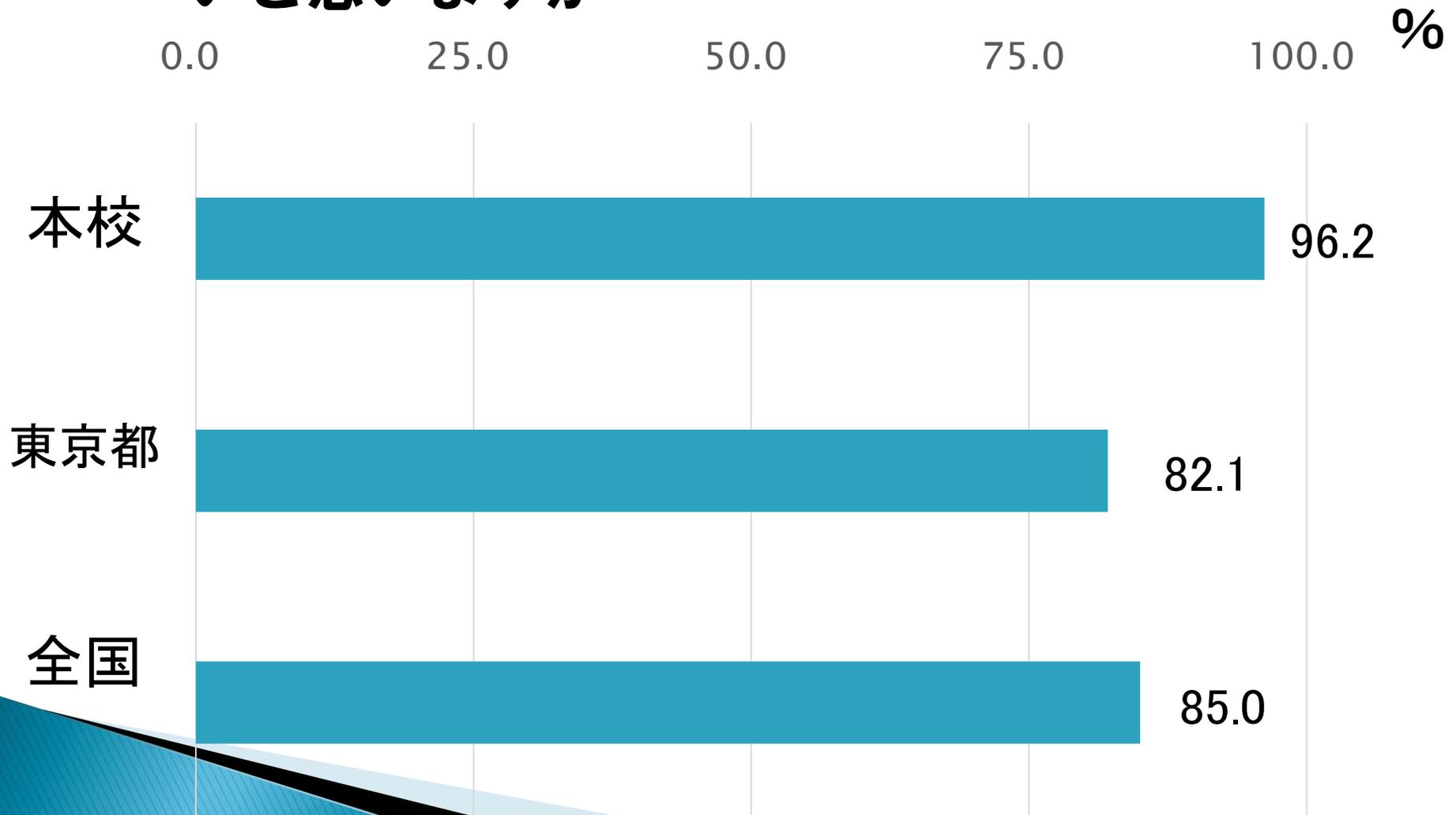
### 3 児童質問紙の結果

## 学校の決まりを守っていますか



### 3 児童質問紙の結果

いじめは、どんなことがあっても許されな  
いと思いますか



## 本校の実態と課題

昨年度から、どの項目も数値が上がっている自己肯定感が高まっていることはよい傾向である。

自己肯定感を高めること  
規範意識を醸成すること